



2023年10月27日

各位

会社名 サイバートラスト株式会社  
代表者名 代表取締役社長 CEO 北村 裕司  
(コード番号：4498 東証グロース)  
問合せ先 取締役 常務執行役員 CFO 清水 哲也  
(TEL 03-6234-3800)

## 2024年3月期第2四半期決算に関する質疑応答集

当社の2024年3月期第2四半期決算に関して、株主・投資家の皆様から頂いたお問い合わせに対して回答をまとめましたので以下の通りお知らせいたします。

なお本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆修正を行っております。

**Q1 2024年3月期は第4四半期偏重の計画とのことですが、第2四半期の進捗率についてどのように評価すればよいでしょうか？**

A1 売上高に占めるリカーリング比率は従前より6、7割で進捗しておりますが、リカーリング売上は年度の後半になるほど積み上がります。またIoTサービスの受託開発、セキュリティコンサルはQ4に集中する傾向があります。その観点からパイプラインを含め現時点での進捗率としては計画通りと評価しております。

また、個別のリカーリングサービスでは安定高収益サービスであるサーバー証明書、クライアント証明書は安定的に伸長しており、高成長牽引サービスのiTrustも急成長しております。

加えて、高成長牽引サービスのLinuxサポートは、CentOS7コミュニティサポート終了という大きなイベントを控えており、そのサポートサービスの市場はCentOS6の時の3倍と見ております。

Q4に大きく集中しますが、この機会をしっかりと捉えていくため、その準備を上期に行ってきたおります。

**Q2 AlmaLinux においては Red Hat 社によるソースコードアクセス制限は解決とのことですが、Red Hat 社の発表を受け、CentOS7 ユーザーが移行先として今後利用したい LinuxOS はどう変化したと考えますか。**

A2 他の後継OSを提供しているコミュニティの方針が不透明なため、後継OSの候補を再検討するユーザーが増えております。その中で、The AlmaLinux OS Foundation は、RedHat 社の意向を尊重しつつ、RHEL 互換 OS として開発を継続し今後も安心して利用することが可能といち早く方針を発表し、提供を開始しております。そのため AlmaLinux が今後の後継 OS として有力な候補となると想定しております。

**Q3 iTrust のトランザクション数が第2四半期に大きく増加した要因として特定の自治体の給付金申請時の本人確認が想定以上に伸長したということですが、同様のことが今後も生じうるのでしょうか？**

A3 他の自治体での給付金申請や他の申請時の本人確認も生じうるため、公的個人認証が使われる場面は今後も益々拡大していくものと考えております。

- \* RHEL とは、Red Hat Enterprise Linux の略であり、Red Hat 社によって開発、販売されている業務向けの Linux ディストリビューションのことです。
- \* iTrust®は当社の登録商標です。
- \* 登録商標 Linux® は、Linus Torvalds から排他的ライセンスを受けている The Linux Foundation からサブライセンスを受けて使用しています。
- \* その他本文書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、当社または各社、各団体の商標もしくは登録商標です。

以上